

日本金融学会80年の軌跡を可視化する —学会の現状と展望—

鎮目 雅人・柴本 昌彦

〈要旨〉

2023年に創立80周年を迎えた日本金融学会は、長きにわたり日本の金融研究を牽引してきた。本稿では、本学会の活動と学会員の研究活動を多角的に分析し、定量データに基づく客観的な評価を通じて、その歴史と現状を明らかにする。具体的には、学会員数、大会報告数、所属別報告数、英語論文報告数、大学院生報告数などのデータを用いて学会活動の変遷を可視化するとともに、全国大会の報告論題ならびに機関誌の掲載論文のテキスト情報を用いて学会員の研究活動を可視化する。分析結果によると、本学会は長年にわたり学会員数を増やし大会報告数も増加させてきたものの、近年、学会員数の伸び悩みや若手研究者の参加低下といった課題が顕在化していることが明らかになった。他方、研究テーマは時代とともに変化し、分野融合的な研究が活発化していること、そして、大学所属の研究者と実務家・政策担当者という異なるバックグラウンドを持つ研究者がそれぞれの視点からの報告を行うことで、多様な議論が展開されていることなどが明らかになった。これらの分析結果は、本学会が社会経済情勢の変化に対応し、分野融合的な研究を推進し、学術研究と実務の橋渡し役としての機能を果たしてきたことを示唆している。これらの分析を踏まえると、学会員層の多様化、分野融合的な研究の促進、新規研究分野の開拓などが、本学会ならびに学会員の活動の活性化に向けた課題と考えられる。

(早稲田大学・神戸大学)